



CORPORATE PROFILE 2025

Purpose

私たちは、革新的なソリューションで、
人、社会、そして地球の心地よさが続いていく
KAITEKIの実現をリードしていきます。

Purposeは、三菱ケミカルグループ※が何をめざし、なぜ存在するのかを示したものです。
三菱ケミカルグループを導く「北極星」として掲げ続けてきたKAITEKIの実現に向けた力強く前向きな意志と、
ステークホルダーに対する私たちの約束を表しています。

※ 三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社を指します

KAITEKI Vision 35

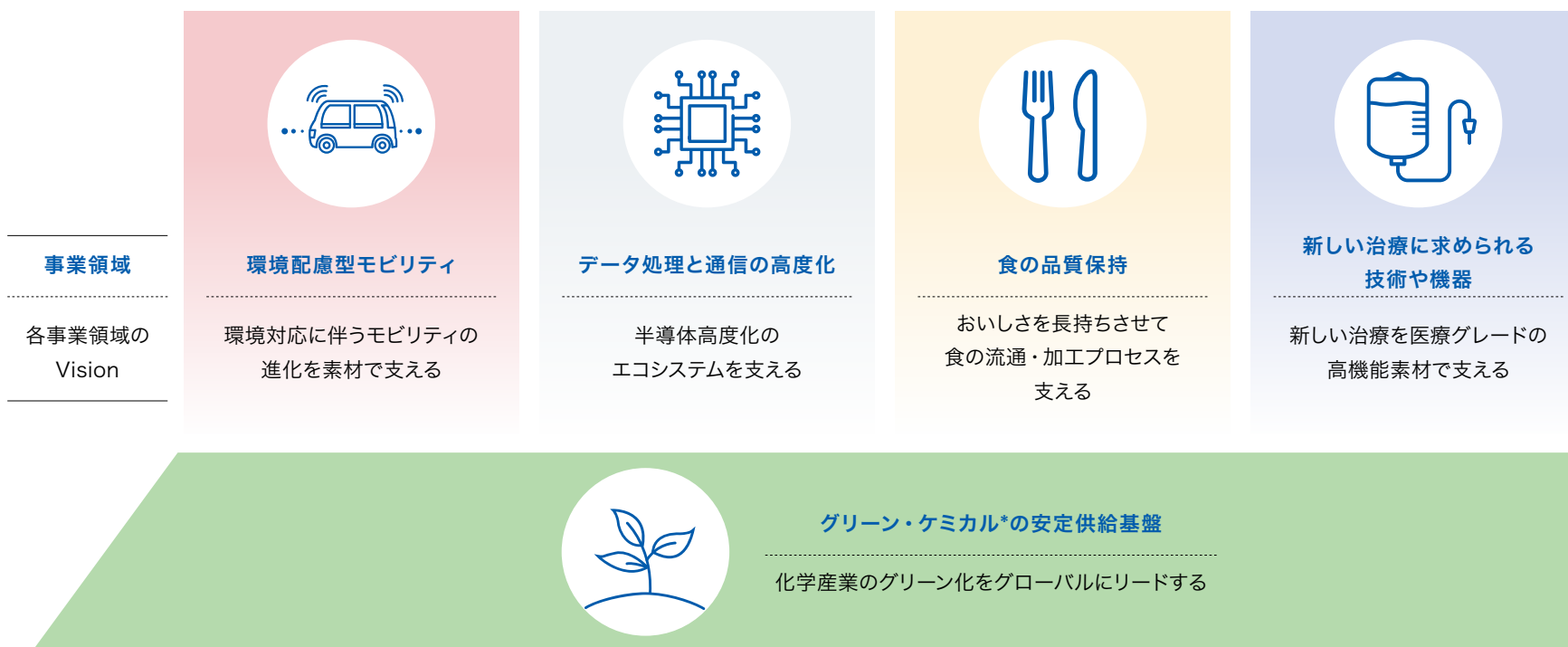
三菱ケミカルグループは、2035年のありたい姿を描いた経営ビジョン「KAITEKI Vision 35」を策定しました。

私たちの強みが活かせる5つの注力事業領域とそのVisionを明確にし、社会が求める最適なソリューションを提供し続けるグリーン・スペシャリティ企業をめざします。

2035年のありたい姿

社会課題に最適なソリューションを提供し続け、
素材の力で顧客を感動させるグリーン・スペシャリティ企業

5つの注力事業領域とそのVision



* 自社製品および顧客製品の環境負荷を低減する基礎化学品およびその誘導品

くらしを彩る三菱ケミカルの製品

三菱ケミカルの製品は、見えないところで私たちの生活を便利にしたり、豊かにしたりしています。

それは、ディスプレイの色を鮮やかにするためのシートだったり、

ケーキをおいしくつくれる材料だったり、植物由来の原料を使用したプラスチックだったり。

社会のいたるところで、人々の生活を支えています。

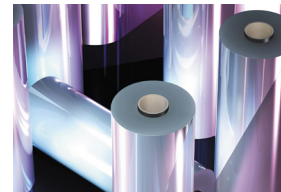


事業紹介

三菱ケミカルは、アドバンスフィルムズ&ポリマーズ、アドバンスソリューションズ、アドバンスコンポジット&シェイプス、MMA&デリバティブズ、ベーシックマテリアルズ&ポリマーズの5つのビジネスグループで事業を展開しています。

アドバンスフィルムズ&ポリマーズ

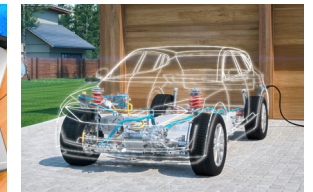
アドバンスフィルムズ&ポリマーズでは、エレクトロニクス、モビリティ、フード、メディカルなどさまざまな領域のお客さまに、成型加工や配合の高い技術力を活かした高機能フィルムや合成樹脂を提供しています。製造・販売と技術開発の一体運営と幅広い技術プラットフォームで、お客さまのニーズに迅速に対応するとともに、新たな価値を提供していきます。



フィルム



ディスプレイ関連材料



モビリティ向け材料

アドバンスソリューションズ

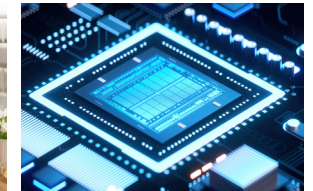
アドバンスソリューションズでは、ターゲットとする産業ごとに事業本部を設け、各産業の成長に貢献することをめざしてさまざまな製品・サービスを提供しています。我々の強みである多様な技術を礎として、各産業のキーとなるお客さまと密接に連携しながら、新たなビジネスモデルの提案も含め、これからもソリューションの創出に取り組んでいきます。



EV・モビリティ分野



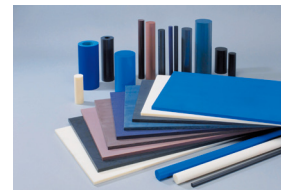
水・環境処理分野



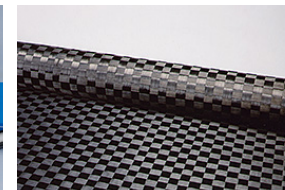
半導体分野

アドバンスコンポジット&シェイプス

アドバンスコンポジット&シェイプスでは、モビリティ、デジタル、メディカルなどさまざまな成長市場をターゲットに、エンジニアリングプラスチックや炭素繊維、またこれらの複合材料等の製品を展開しています。これらの製品は強度、耐熱性、剛性等に優れた特性を持つ高機能製品であり、金属からの代替が可能な軽量化部材としても利用されています。



エンジニアリングプラスチック



炭素繊維複合材料

事業紹介

MMA& デリバティブズ

MMA事業は、主要3製法を世界で唯一保有し、約30%の世界シェアを誇る三菱ケミカルのコア事業の一つです。塗布や混ぜ込みによって性能を向上させるコーティング材料や添加剤についての深い知見を持ち、さまざまな製品を提供しています。これからも市場や顧客の持続可能性に寄与する製品や、代替不可能な特性を持つ製品の開発を続けていきます。



添加剤



MMAモノマー

ベーシック マテリアルズ& ポリマーズ

ベーシックマテリアルズ&ポリマーズでは、エチレンなどのオレフィンから各種基礎化学品・ポリマーなどの誘導品まで幅広い石油化学製品と、コークス・カーボンブラックなどの炭素製品を製造・販売しています。サステナビリティに貢献するリサイクル、CCUS*、バイオマス原料の活用などを通じて、基礎化学産業のグリーン化をグローバルにリードすることをめざしていきます。

* Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage



石油化学プラント



自動車内装部品用樹脂



炭素製品



サステナビリティ

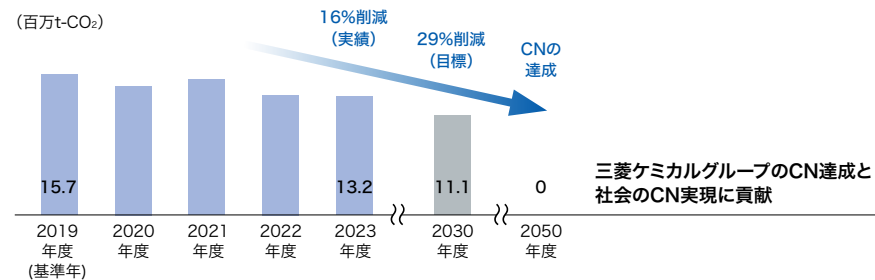
三菱ケミカルグループは、KAITEKIの実現をめざし、サステナビリティを経営の中核の一つに据え、カーボンニュートラル達成に向けた取り組みとサーキュラーエコノミーの推進を行っています。

カーボンニュートラルへの取り組み

温室効果ガス排出量を2030年度には29%削減(2019年度比)、2050年度には実質ゼロとするカーボンニュートラル(CN)達成を目標に設定し、削減策を実行しています。2050年度を見据えてバックキャストし、2030年度の目標達成に向けて具体的かつ実現性の高い施策である燃料転換やプロセス合理化などの取り組みを着実に進めています。

温室効果ガス排出削減の計画と進捗(Scope1&2)*

(百万t-CO₂)



2030年度目標達成に向けた施策

- 製造プロセスの合理化・省エネ化
- LNGへの燃料転換
- 新技術導入
- 事業構造改革

※ 田辺三菱製薬株式会社譲渡前の数値

サーキュラーエコノミーの推進

三菱ケミカルでは、プラスチック循環や炭素循環を中心としたサーキュラーエコノミーに貢献する取り組みを加速しています。環境負荷の少ない製品として、リサイクルプラスチック、バイオマス原料への転換、生分解による炭素循環、使用時の温室効果ガス排出量削減に寄与する製品等の拡大により、事業のさらなる成長を図ります。

三菱ケミカルのプラスチック循環への取り組み

プラスチック循環

- マテリアルリサイクルの循環モデル構築
- ケミカルリサイクルの事業化検討

バイオプラスチック活用

- バイオマスを原料とした各種プラスチック
- 生分解による炭素循環

炭素・水素の活用

ライフサイクル・アセスメントの活用

- バリューチェーン全体で環境負荷削減へ貢献する製品・サービスの強化

オープンイノベーション、ステークホルダーとの連携

イノベーション

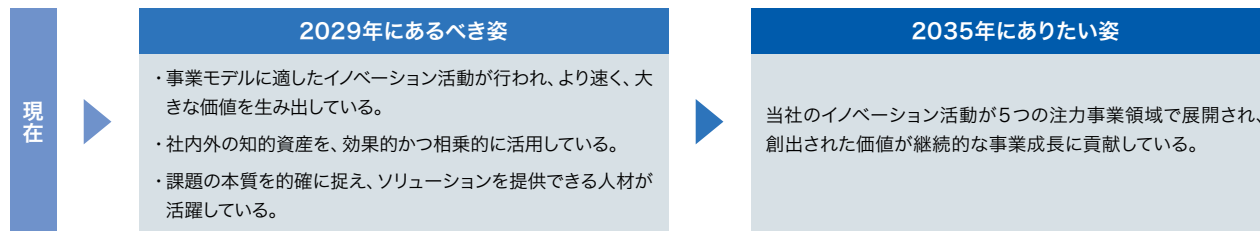
化学産業が興って100年以上が過ぎ、多種多様な化学品が供給されることで人々の生活は便利で豊かになりました。

しかし近年では化学産業が成熟し、新素材をつくるというアプローチでの新規事業開拓は非常に難しい時代になりつつあります。素材の開発のみならず、社会が抱える課題にソリューションを提供できるよう、イノベーション活動を推進していきます。

イノベーションのめざす姿

当社のイノベーションについて、2035年にありたい姿を描き、その実現のために2029年にあるべき姿を見据えました。

多様化している顧客の課題や、持続可能な社会を実現するための課題を中心に据え、化学技術で課題解決を図ることで顧客や社会に価値を提供し続けていきます。



イノベーション戦略

イノベーションの対象を顧客価値と技術を軸とした4つの領域に分類し、それぞれの特性に合わせた戦略に沿って活動を行っています。



会社概要

会社概要サイト



三菱ケミカル株式会社 Mitsubishi Chemical Corporation

本社所在地	〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル
代表者	代表取締役社長 筑本 学 代表取締役 下平 靖雄
創業	1933年8月31日

発足	2017年4月1日
資本金	532億2,900万円
事業内容	機能商品、素材ほか
従業員数	連結 38,589名、単独 13,249名(2025年3月期)

国内ネットワーク

- 本社・支社(エリア)

4拠点

- 製造拠点

16拠点

- 研究開発拠点

13拠点



グローバルネットワーク

米州、欧州・中東・アフリカ、中国、南アジア・東南アジアにリージョン中核会社を置き、各地域におけるガバナンスを強化するとともに、間接部門サービスの提供やマーケティングなどを通じて事業活動を横断的にサポートします。

- リージョン中核会社

4拠点



2025年7月改訂

- 本会社案内記載の内容については、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本会社案内からの無断転載を禁じます。